



資料館だより

NO.64
2018年
6月号

過去と未来がひびきあう

—ようこそ、エコミューズへ。

www.aozora.or.jp/shiryoku/

あおぞら
財団付属

西淀川・公害と環境資料館

エコミューズ

「大阪の大気汚染から学ぶ」フィールドワークプログラムパンフレットが完成しました



エコミューズの利用者は年間で400人ほどですが、一番多い利用者は研修です。単純に、資料を見に来る人が多いわけではありません。一般企業であれば、「売れ筋商品」を一番に押し出して活動するのですが、NPOは営業戦略のような部分が薄く、研修プログラムの整備が整っておりませんでした。そこで地球環境基金を活用して、西淀川公害の研修プログラムを整備いたしました。

パンフレットを作成するに当たり、これまでとらわれていた部分を白日のもとにさらけ出されたような気がします。「西淀川」という地名が、大阪内でも知名度が低い中で、西淀川の公害といっても、イメージしてもらいにくいのではないかという気付きから「大阪の大気汚染から学ぶ」と打ち出すことになりました。

ホームページに掲載したところ、5月と6月の土曜日は大学のゼミ関係の研修受け入れで埋まってしまいました。交通の便がいい西淀川ですので、ぜひともご活用ください。

(林美帆)



◆ こちらのQRコードからもご覧になれます。

小学生が来館してくれました

～西淀川公害に関する教材・プログラム、あります～

3月末のお天気のいいある日、5年生のときにあおぞら財団の公害の授業を受けた西淀川区の小学6年生が、エコミューズに来館してくれました。4月から中学に上がる時期なのですが、宿題などのためではなく、自分で疑問に思っ調べて来たそうです。

「今までの大気汚染公害の歴史を知りたい」「自分になにかできることはないですか?」という質問に、展示パネルで説明したり、あおぞらビルの屋上から西淀川を通る多くの道路と交通量の問題、歌島橋交差点の測定局や防音壁などの環境対策について説明しました。

「自分ができること」としては、フードマイレージを意識することや大気汚染の測定状況をチェックすること—測定局の数値を見るだけでなく、自分で大気汚染について調べることもできること—についてお話ししました。他にも、大阪府の流入車規制やロードプライシングといった対策、裁判後に毎年行われている「西淀川道路環境対策連絡会」の紹介など、資料を渡して紹介しました。



自分から来てくれたことが嬉しくて、ついたくさん話したのですが、終始熱心に聞いてくれました。エコミューズの所蔵図書でかつての公害の写真集などを紹介したところ、「酸性雨で銅像がボロボロになったりしているんですよ」と言ったり、福島原発事故についても関心があるようでした。もうちょっと大きくなって、またエコミューズの資料を活用しに来てくれるといいなと思いました。

あおぞら財団では小学校向けの教材紹介や公害の出前授業・フィールドワークを行っています。ご案内チラシを作成しました。ぜひご活用ください。

